

Sustainability Report

スズクグループ環境社会報告書 2011



スズクグループ1年間の成果



「昨日のゴミ」を「明日の資源」に

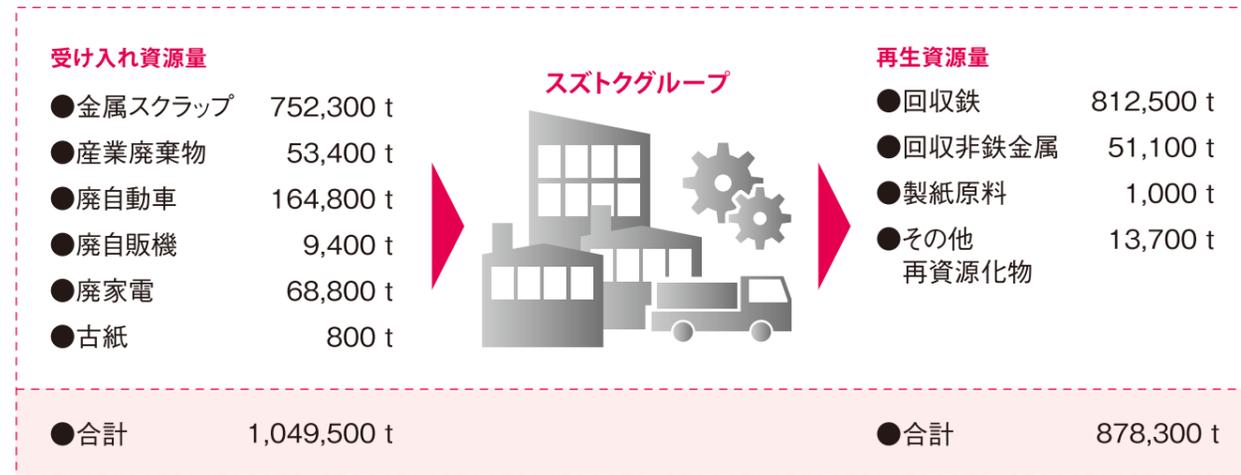


地球環境保護のために、この冊子には古紙パルプ配合率100%のリサイクル紙と植物油インクを使用しています。

2010年度 資源リサイクルの全体像

スズクグループは、さまざまな使用済み資源の再資源化を主要なミッションとしています。事業活動においては、使用エネルギー、発生廃棄物(残渣)の量などを可能な限り削減し、環境負荷を低減。地球環境に優しい企業体を目指しています。

受け入れ資源量および再生資源量



2010年度、グループ全体で1,049,500tの資源を受け入れ、再生資源として878,300tをリサイクルし社会へ還元しました。取扱品目の内訳については、前年度と比べ金属スクラップ、廃家電の取扱量が大きく増えたほか、廃自販機の受け入れも微増しました。また、古紙受け入れはほぼ横ばいの数字となりましたが、廃自動車は減少。トータルでの受け入れ資源量は前年度比945,800tの増加となりました。再資源化物の社会への還元率は、昨年よりも1ポイント増えて、86%となりました。

■ 事業活動にともなう発生物 ■

再資源化工程では、どうしてもリサイクルできないものも発生します。そのため、これらの残渣を適正に処理することで、環境に与える負荷を最小限にとどめることも、リサイクル事業者の責務です。

グループでは、リサイクル率を高めるための取り組みと並行して、自社で再資源化できないものについては、焼却、埋立、破壊(フロン)といった方法での処理委託を行なっています。

■ 2010年度の環境投資 ■

2010年度の環境投資額は右表のとおりです。昨年度比約160%増となる24億6100万円を投資し、グループの環境保全活動を積極的に推進。中田屋(株) 加須工場のシュレッター設備更新、(株)新生の破砕機更新、中田屋(株) 千葉工場の古紙圧縮梱包機の新設など、リサイクル率向上のための投資を重点的に行ないました。また、昨今の社会情勢を鑑み、放射線測定器を未設置だった事業所にも新たに導入。そのほか敷地内の植栽など、事業所緑化の取り組みを昨年度に引き続き行ないました。

再資源化物の還元率

約 **86%** ※
を社会に還元

※還元率(%)は「再生資源量÷(再生資源量+発生廃棄量)」で算出

発生廃棄物量と処理方法

処理方法	量
焼却	89,800 t
埋立	55,700 t
破壊(フロン)	210 t
合計	145,710 t

2010年度環境投資

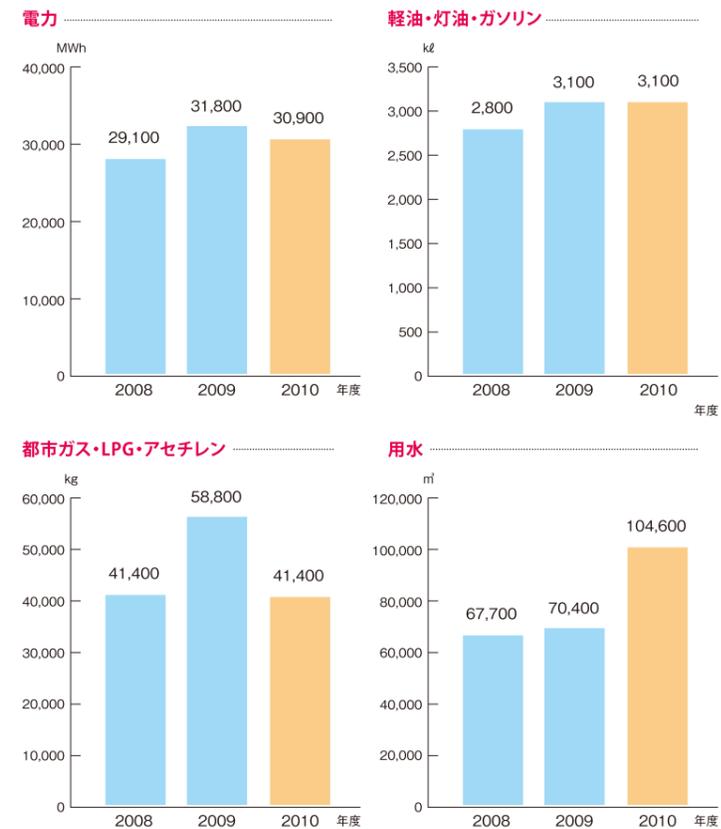
区分	金額	主な投資内容
公害防止	790	防音壁、集塵機、放射線測定器
環境保全	39	フロン回収設備、kWhメーター、植栽
資源循環	1,632	シュレッター設備、古紙圧縮梱包機、破砕機
合計	2,461	

単位:百万円

■ 事業活動に使用したエネルギー ■

業務を行なううえでは、設備などを安定稼働するためのエネルギーが不可欠です。限りある資源エネルギーを有効活用するためにも、グループでは事業活動にともなうエネルギー使用の効率化を推し進めています。

今年度の特徴としては、都市ガス・LPG・アセチレンの使用量を昨年度比で約30%削減しました。効率使用が社会的課題ともなっている電力に関しては、ほぼ前年度並みの使用量を維持しました。そのほか、用水の使用量は増加しましたが、これは地下水も新たに集計対象に加えたことによるものです。



■ 事業活動で排出されるCO₂ ■

機械設備の操業やトラックの使用などにより、大気中に二酸化炭素(CO₂)が排出されます。グループでは、各種の取り組みにより事業活動で排出されるCO₂の削減に努めています。

事業活動の拡大などにもなっており、ここ数年のCO₂排出量は増加傾向にありますが、今後も継続してCO₂削減のための取り組みをグループ全体で実施していきます。

省エネ法への対応

特定事業者	エネルギー使用量 (2010年度、原油換算)
鈴 徳	2,384 kL
中田屋	3,014 kL
フェニックスメタル	2,719 kL

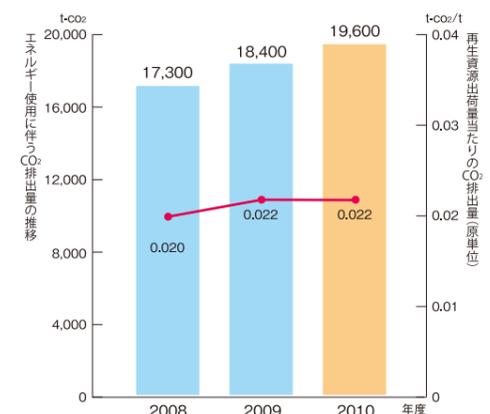
省エネ法では、「企業全体のエネルギー使用量が1,500kL/年以上の企業」を特定事業者指定し、エネルギー使用の把握と管理を義務づけています。グループで特定事業者に該当するのは上記3社。省エネ法に基づき、対策を実施中です。

事業所のエネルギー等使用量

種類	量
電力	30,900 MWh
軽油・灯油・ガソリン	3,100 kL
都市ガス・LPG・アセチレン	41,400 kg
用水	104,600 m ³

CO₂排出量

エネルギー使用にともなうCO ₂ 排出量	19,600 t-CO ₂
再生資源出荷量当たりのCO ₂ 排出量	0.022 t-CO ₂ /t



※t-CO₂/t換算係数の変更について
2011年度より、電力のt-CO₂/t換算係数が0.000339から0.000384に変更になっています(2010年12月の環境省の報道発表資料に基づく)。

環境マネジメントシステムについて

国際規格ISO14001に基づくPDCAサイクルにより、環境経営を推し進めています。グループ各社・各事業所が目標を設定し、その達成を目指すことで、より高度な環境マネジメントシステム(EMS)の確立を実現します。

■ 環境マネジメントシステムの概要 ■

従来、グループ内4社で個別に運用していたEMSを2009年に統合。現在は、適用範囲を全事業所に拡大し、グループ全体でISO14001に適合したEMSを運用しています。

当グループのEMSで最も特徴的なのは、本業であるリサイクル事業がそのまま環境保全に結び付くこと。そのため、本業を通じて循環型社会の形成に貢献することをEMSの基本理念と位置づけています。

■ スズクグループの環境方針 ■

基本理念

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっている。このような状況に対し、スズクグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進する。

基本方針

- 1 ISO14001に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。
- 2 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
- 3 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。
 - ① 資源回収の充実とリサイクルの高度化
 - ② 地域社会への貢献
 - ③ 省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
 - ④ 安定した資源リサイクル

2007年11月1日
スズクホールディングス株式会社
代表取締役社長 グループCEO 鈴木孝雄

■ 2010年度の取り組み ■

グループ各社の取り組み

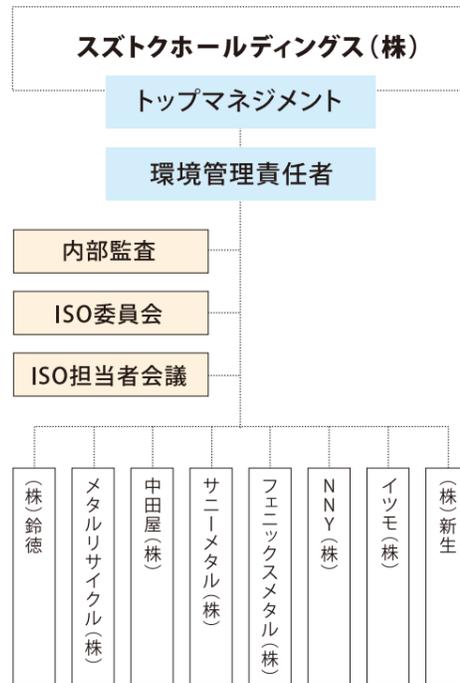
2010年度も、グループ各社が環境保全に関する目標を掲げ活動を展開しました。たとえば、中田屋(株) 袖ヶ浦ショッピングセンターは、「電気使用量を前年度比5%以上削減」という目標を設定し、達成。電力使用の手順書を作成し、各社員が達成手段を明確に認識できたことが、目標達成につながりました。

また、NNY(株)では、1時間当たり300kg以上のプラスチックを回収することを目標に設定。定期的な刃交換などの機器のメンテナンスや、日々のデータ収集・分析による回収作業の効率化により達成しています。

グループ内のさまざまな取り組み

たとえば(株)鈴徳では、社員による自主的な取り組みである「省エネ部会」を今年度も継続しました。毎日の業務で使うエネルギーデータを集計・分析し、コストや利益率といった要因も考慮しながら協議することにより、より効率的な設備操業のあり方を模索しました。

EMS運用のための組織体制



フロン回収業務
業務用冷凍空調機器などの冷媒として使用されるフロンは、フロン回収・破壊法によって適切に回収することが義務づけられています。中田屋(株) 加須工場では、フロン回収工程をEMSに組み入れることで、さらなる実効性を確保しました。



(株)鈴徳 省エネ部会
エネルギー使用の継続的改善について話し合いの場を設け、各種施策を打ち出す作業部会。本年度も、電力使用量の多くを占めるキロチンの稼働率向上などさまざまなアイデアが現場に反映されました。

■ グループの目標設定と達成率(2010年度) ■

2010年度、スズクグループでは、環境方針に基づき、さまざまな目標を掲げました。具体的には、業務で発生する廃棄物の削減やリサイクルの高度化を目指す取り組み、さらには、地域社会に貢献するための施策などです。全89件の目標のうち、約88%に当たる78件について目標を達成しました。

全89件中 78件
目標達成率
約 **88%**

環境方針	省エネ・省資源・廃棄物削減	資源回収の充実とリサイクルの高度化	安定した資源リサイクル(危機管理)	法令順守・汚染の予防	地域社会への貢献	継続的改善
個々の事業所で掲げた主な目標	燃費の向上 2007年度比5%向上	非鉄金属の売上向上 前年度以上	事故件数 昨年度以下	エアコンフロン漏洩ゼロ	工場周辺道路の清掃 月5回以上実施	事務所はじめ全体の4S* 1回/月
	電気使用量を 前年度比5%以上削減	処理ダストから回収する 非鉄金属 1500kg/月以上	設備機器の 突然停止ゼロ	PCB入りのトランス 受入防止手順の 確実な実行	企業団地内の不法投棄防止 周辺地区見回り100%実施	安全パトロール時の 指摘に対する100%対応
	省電力OA機器への入替 全23場所中10場所	処理ダストから回収する プラスチック 300kg/時以上	火災ゼロ	有価物・廃棄物中の 有害物質特定手順の確立	待機車両の事故などによる 通行障害をなくす	個人目標の設定 1人1件/年
	省エネ法・中長期計画 の作成・運用	廃プラスチック処理コスト 2007年度比15%削減	法の報告規則に該当する 自動車重大事故ゼロ	油の漏洩・流出対策改善 2か月に1回以上実施	騒音・振動クレームゼロ	職場改善に向けた 問題点・改善点提案 1人1個/月
	事務用品、備品の グリーン購入推進	受入量増を目指す営業推進 新規顧客訪問15件/月	新規仕入数量 前年度以上	工場内の排水経路を 明確な管理状態にする	粉塵・ゴミ等の飛散防止 近隣からの苦情ゼロ	社内外の講習受講 1回以上/年
	上記を含め 目標設定件数 11件	上記を含め 目標設定件数 21件	上記を含め 目標設定件数 12件	上記を含め 目標設定件数 15件	上記を含め 目標設定件数 14件	上記を含め 目標設定件数 16件
達成件数	目標達成件数 10件	目標達成件数 15件	目標達成件数 8件	目標達成件数 15件	目標達成件数 14件	目標達成件数 16件

*4S…整理、整頓、清掃、清潔

目標設定・達成状況に関する総合評価

今年度、全体の目標件数は昨年度の100件から89件に減少。やや難易度が高めの目標を設定した事業所が増えたこともあり、達成率は前年度に比べ7ポイント低下しました。ただし、「法令順守・汚染の予防」「地域社会への貢献」「継続的改善」の3項目に関しては、設定目標を全件達成しています。

今年度は、震災などの外的な要因もあり、一部の項目においては達

成が難しい状況となりました。そのため、「資源回収の充実とリサイクルの高度化」などの項目で未達が多かった一方、多くの事業所が努力によって確実に達成可能な項目に注力したことで、先の3項目の達成率100%という結果につながりました。

グループでは今後も、明確な目標設定とその達成のための手段の確立を推進し、環境保全活動を展開していきます。

労働安全衛生の確保・推進

スズクグループでは、何よりも労働環境の「安全」を優先しています。そのため、日常業務における災害情報は軽微なものまですべて収集し、それらを社員間で共有。社員からの改善提案も積極的に取り入れながら、効果的な安全活動、そして、さらなる労働環境の安全向上に取り組んでいます。

■ 労働安全衛生体制の概要 ■

総合リサイクル業では、時代の移り変わりとともに取り扱う品物も日々変化しています。そのため、それが、予期できないさまざまなリスクにつながる場合があります。グループでは、そのようなリスクを最小化し、業務上の安全衛生を高いレベルに保つための体制を構築しています。具体的には、スズクグループ安全委員長の下、SMS、NDY*それぞれに安全委員長を任命し、合同安全衛生遵法委員会を設置。事故例の共有による安全ルール順守の呼びかけなど、社員の安全意識を向上するための施策を実施しています。そのほか、各事業所のインフラ整備推進のための取り組みも行ない、安全な労働環境の維持に尽力しています。

■ 事故の再発を防ぐ「事故報告システム」■

グループの拠点で事故が発生した場合、社内ネットワーク上の「事故報告システム」に事故の内容を登録することをルール化しています。このシステムを用いれば、事故の内容を全社員にメールで配信することが可能。これにより、事故時の状況などに関する情報をグループの全事業所で共有することができるため、同様の事故の再発を未然に防ぐことができます。

また、合同安全衛生遵法委員会では、事故報告システム上の報告事項を確認・検証し、特に重要と思われるものに関しては、具体的な再発防止策を各事業所・社員へ発信しています。

■ 2010年度の具体的な取り組み ■

人身事故無災害記録をさらに更新

中田屋(株) 伊勢崎工場では、2011年6月30日に無事故無災害2257日を記録しました。背景には、さまざまな施策があります。たとえば、工場内に危険と思われる場所があった場合は、発見者が自発的に呼びかけて全社員で共有。また、日々の業務では経験豊富な社員が中心となり、互いに声を掛け合うなど、安全な作業環境の維持とさらなる改善に努めています。

今後も、全社員が一丸となり、無災害記録の継続を目指していきます。

グループ各社、およびグループを横断した取り組み

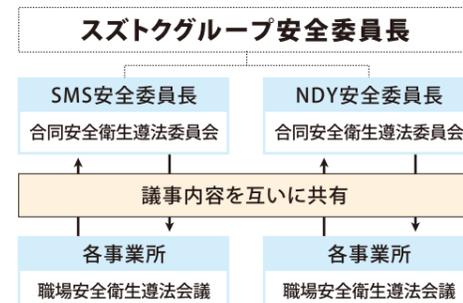
各社、各工場でも独自に安全衛生の確保に取り組んでいます。たとえば、新たな取り組みとしては、イツモ(株)でアルコール検知器を66台導入し、ドライバー全員が携帯。毎日の点呼時に呼気検査を行ない、数値確認することで、飲酒運転撲滅と安全運転を推進しています。

さらに、グループを横断した取り組みとしては、「人身災害の削減」のスローガンの下、KY(危険予知)活動に注力しました。具体的には、過去5年間に起きた事故を基に研修シートを作成し、実践的な事故対応トレーニングを全事業所で実施しています。また、例年同様、お客様へのヘルメット配布徹底、危険物を散乱させないための2S(整理・整頓)徹底、従業員相互の身だしなみチェックも継続しました。

今後も、スズクグループでは、具体的な年間計画を基に事故のない業務環境の整備を徹底していきます。

*SMS…鈴木、メタルリサイクル、新生からなるグループ
NDY…中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY、イツモからなるグループ

労働安全衛生の管理体制



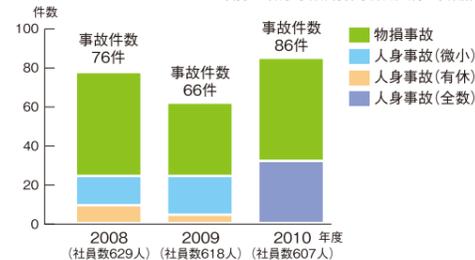
SMS、NDYそれぞれのグループに合同安全衛生遵法委員会を設置し、職場の安全性を維持するための取り組みについて協議します。一方、各事業所の職場安全衛生遵法会議では、その内容を共有し、事業所固有の課題に落とし込んだ対策を検討しています。



合同安全衛生遵法委員会の様子

合同安全衛生遵法委員会では、2カ月に1度、各事業所から1~2名ずつ担当者が集まって会議を行います。他拠点の事故情報や安全管理状況などを全事業所が共有することで、労働安全衛生の推進につなげています。

事故数の推移



本年度の事故数は86件。本年度からは、これまで総数から除外していたごく軽微な事故までをカウントし、より正確な実態の把握に努めました。そのため件数は昨年度比20件増となりました。



ドライバーの呼気検査

イツモ(株)では、ドライバー全員がアルコール検知器を携帯。呼気検査のルール化により飲酒運転を予防するとともに、各人の安全運転意識向上につなげています。

コンプライアンスの徹底

事業を継続し、お客様、ひいては社会に貢献するために、「安全」と並んで重視しているのが「遵法」です。排出事業者責任を持つお客様に安心して当グループのサービスをご利用いただくため、社員に対する法知識教育や処理委託先の審査など、さまざまな取り組みを実施。健全で適法な事業活動を推進しています。

■ 「遵法・環境室」の役割 ■

グループ全体のコンプライアンスを担う部門として、スズクホールディングス(株)に「遵法・環境室」を設置しています。遵法・環境室では、定期的な遵法監査*の実施、各事業所からの法律関連の問い合わせ対応などを行ないながら、日常業務の適法性を確保。そのほか、定期的に社員向けの法律研修を開催するなど、グループ全体の遵法意識向上のための活動も行なっています。

また、グループの各事業所は、許可証や契約書などの膨大な情報を持っています。遵法・環境室はそれらの情報をITシステムで一元管理することで、グループの情報を適正に管理する役目も果たしています。

■ 事業の適法性を守る「遵法監査」■

遵法監査とは、全事業所で廃棄物処理が適正に行なわれているかどうかをチェックする内部監査です。本年度の指摘項目総数は215件。それらを重要性によって指摘、提案、推奨の3段階に分類し、各事業所に改善を促しています。

遵法監査での指摘箇所の改善状況は、その後の「フォローアップ監査」によってチェックします。今年度は215件中196件(約9割)の是正を確認。さらにその後、特に指摘が多かった項目の再監査を行なう「臨時監査」までもって、全事業所のすべての指摘箇所の是正が確認されました。

■ 処理委託先の監査も実施 ■

グループの各社・各事業所から排出される廃棄物を、処理委託している外部の委託先業者についても、昨年同様の訪問審査を自主的に実施しました。本年度は全19社を訪問(新規委託先1社含む)。「マニフェストはどのように管理されているか」「帳票の記載・保管方法はどうか」など、監査項目のチェックリストを作成し、厳正な監査を実施しました。

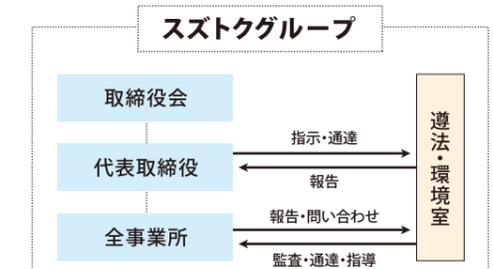
これは、委託先業者の廃棄物管理体制を確認することで、グループ自身が排出事業者責任を果たすことはもちろん、お客様が、より安心して当社に処理を委託できる体制を構築するためです。

■ 2010年度の具体的な取り組み ■

目視での搬入物チェック、ITシステムによる厳格なマニフェスト運用など、日常業務におけるコンプライアンス確保のための取り組みを今年度も継続しました。また今年度からは、遵法・環境室スタッフが各事業所を地域ごとに受け持つ「エリア担当制」を導入。各事業所の側にはコンプライアンス関連の担当者を置くことで、事業所が遵法・環境室と密接にやりとりできる体制を目指しています。

また、定期の遵法監査、フォローアップ監査、臨時監査は今年度も全事業所に対して各1回ずつ実施。さらに、取引のある社外の収集運搬業者様や排出事業者様に向けては、コンプライアンスの枠にとどまらず、担当者のレベルアップのための実務者研修を主催しました。

コンプライアンス確保のための体制



代表取締役の指示・通達の下、遵法・環境室は全事業所に対する監査の実施、各種指導などを行ないます。また、各事業所から寄せられる廃棄物処理法関連の問い合わせなどにも随時対応しています。



マニフェスト管理システム

産業廃棄物は「マニフェスト」と呼ばれる伝票で、搬入/搬出時の数量、種類などの情報を厳重に管理しています。グループでは、自社開発のITシステム「マニフェスト管理システム」を用いて、受け入れから最終処分までの情報の流れを効率的に管理しています。



社内外への教育の実施

社内向け以外に、社外への教育にも力を注いでいます。例年同様、中田屋(株)が窓口となる全国150社以上の業務委託ネットワーク、マリソルネットワークの会議での研修、また取引先を訪問しての研修などを実施しました。

*「遵法監査」については、P16~18でも詳細を紹介しています。

グループ概要・会社紹介

グループの事業会社8社それぞれが持つ強みを最大限に発揮し、あらゆるお客様ニーズにお応えします。同時に、環境への配慮を忘れず、「総合リサイクル企業」として高度循環型社会の実現を目指していきます。



スズトクホールディングス株式会社

グループ全8社を統括する持株会社。管理部、システム室、遵法・環境室が設置されており、全社の事業統括、システム管理、コンプライアンスなどを担っています。

- 設立 2007年7月
- 資本金 1億円
- 売上高 5億5,900万円(2011年6月期)
- 社員数 19名
- 所在地
〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19(本社)
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル(管理部、システム室、遵法・環境室)
- 連絡先
TEL:03-3293-6301(管理部)
FAX:03-3219-5935
E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp
- ホームページ <http://www.suzutoku.co.jp/ho/>

主な財務関連データ(グループ全体)

売上高*1 540億3,900万円

経常利益*1 △1,600万円

従業員数*2 607人

※1
グループ全社の直近の決算数値を単純合算したもの
※2
2011年6月30日現在、経営層を含み、派遣・請負作業の従事者は除く

株式会社 鈴徳

鉄を中心とする金属のリサイクル業を主としながら、一部、産業廃棄物処理も行なっています。創業107年の歴史と実績を基に、東京および近郊全7カ所の工場で事業を展開しています。

- 設立 1935年2月(創業1904年2月)
- 資本金 1,000万円
- 売上高 156億2,800万円(2011年2月期)
- 社員数 109名
- 本社 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19
- TEL 03-3631-5472
- ホームページ <http://www.suzutoku.co.jp>

取扱品目

金属スクラップ	360,678 t
産業廃棄物	12,154 t
廃自動車	6,020 t
廃自販機	364 t

メタルリサイクル株式会社

金属のリサイクル、産業廃棄物処理に加え、使用済み自動車の引き取りから破砕までの一貫処理が可能。廃自動車から回収した中古パーツは一般のお客様向けに販売も行なっています。

- 設立 1999年11月
- 資本金 9,000万円
- 売上高 47億4,200万円(2011年2月期)
- 社員数 100名
- 本社 〒350-0166 埼玉県比企郡川島町戸守440
- TEL 049-297-2111
- ホームページ <http://www.metal-r.co.jp>

取扱品目

金属スクラップ	56,805 t
産業廃棄物	4,070 t
廃自動車	31,999 t
廃自販機	2,088 t

中田屋株式会社

関東および静岡県の8拠点で、鉄・非鉄のリサイクル、産業廃棄物、廃自動車、廃自販機の処理、家電リサイクルなどを幅広く展開。そのほか、全国での廃棄物処理ネットワークを構築しています。

- 設立 1951年1月
- 資本金 1億円
- 売上高 191億9,200万円(2010年10月期)
- 社員数 176名
- 本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル
- TEL 03-3293-6781
- ホームページ <http://www.ndy.co.jp/>

取扱品目

金属スクラップ	282,187 t
産業廃棄物	26,550 t
廃自動車	39,255 t
廃自販機	1,729 t
廃家電	21,836 t
古紙	58 t

サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西拠点。主に産業廃棄物、資源ごみなどのリサイクルを行なうほか、家電リサイクルも実施しています。また、地域で唯一のシュレッダーを持つ事業所でもあります。

- 設立 1986年6月
- 資本金 1億円
- 売上高 23億8,300万円(2011年3月期)
- 社員数 42名
- 本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 (事業所)〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13
- TEL 06-6461-2818
- ホームページ <http://www.sunny-metal.co.jp/>

取扱品目

金属スクラップ	9,081 t
産業廃棄物	4,513 t
廃自動車	11,550 t
廃自販機	1,928 t
廃家電	7,410 t
古紙	56 t

フェニックスメタル株式会社

2009年にリニューアルしたグループ唯一の敷地面積を誇る事業所により、大量の品物の処理が可能。鉄・非鉄、産業廃棄物から家電まで、多彩な品目のリサイクル処理を行なっています。

- 設立 1987年12月
- 資本金 1億円
- 売上高 81億5,100万円(2011年3月期)
- 社員数 43名
- 本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 (事業所)〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通7-3
- TEL 0436-43-1261
- ホームページ <http://www.pmc.to>

取扱品目

金属スクラップ	89,163 t
産業廃棄物	4,438 t
廃自動車	87,685 t
廃自販機	3,884 t
廃家電	31,972 t

NNY株式会社

重液選別機によるミックスメタルの高精度な選別回収を主に行ない、グループのリサイクル率向上に貢献しています。そのほか、家電や廃プラスチックのリサイクルなども行なっています。

- 設立 1989年10月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 17億5,600万円(2011年8月期)
- 社員数 29名
- 本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 (事業所)〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11
- TEL 0287-29-2777
- ホームページ <http://www.nnycorp.jp/>

取扱品目

金属スクラップ	1,144 t
ミックスメタル	25,542 t
産業廃棄物	1,854 t
廃自動車	50 t
廃家電	7,533 t

イツモ株式会社

グループの運送部門を担当。計92台のトラックにより、1都24県5市での産業廃棄物収集運搬業を展開しています。また、一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業の許可も取得しています。

- 設立 1961年5月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 12億1,300万円(2011年3月期)
- 社員数 70名
- 本社 〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町210
- TEL 043-423-3415
- ホームページ <http://www.suzutoku.co.jp/itm/>

保有輸送車両

2トン車	2台
4トン車	3台
8トン車	11台
トラクタ	22台
セミトレーラー	23台
12~15トンダンプ	19台
10~15トントラック	12台
(計92台)	

株式会社 新生

関東を中心に1都8県で廃棄物収集運搬業を展開。そのほか、機密文書をはじめとする古紙の処理、木材のチップ化など、グループでも他に類を見ない品目の処理を行なっています。

- 設立 1993年10月
- 資本金 5,000万円
- 売上高 4億1,500万円(2011年4月期)
- 社員数 19名
- 本社 〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-21
- TEL 0493-57-2170
- ホームページ <http://www.shinsei-env.co.jp>

取扱品目

金属スクラップ	2,931 t
産業廃棄物	2,930 t
古紙	651 t

保有輸送車両

2トン車	3台
4トン車	10台
10トン車	1台
(計14台)	

※取扱品目:2010年7月1日~2011年6月30日、保有輸送車両:2011年6月30日現在

許認可・登録の概要(取得自治体数)

2011年6月末現在

許認可等の内容	産業廃棄物			一般廃棄物		自動車リサイクル		優良産廃処理業者認定制度			
	中間処分業	収集運搬業	特別管理収集運搬業	処分業	収集運搬業	引取業・フロン類回収業	解体業・破砕業	第一種フロン類回収業	再生事業者登録	処分業	収集運搬業
株式会社 鈴徳 http://www.suzutoku.co.jp	6	6		1	1	3	3	3	7	1	
メタルリサイクル株式会社 http://www.metal-r.co.jp	2	8	1			2	2	2	1		
中田屋株式会社 http://www.ndy.co.jp/	6	6				4	5	9	6	2	1
サニーメタル株式会社 http://www.sunny-metal.co.jp/	1	8					1	1	1		
フェニックスメタル株式会社 http://www.pmc.to	1	1		1			1	1	1		
NNY株式会社 http://www.nnycorp.jp/	1	3		1	3	1	1	1	1	1	1
イツモ株式会社 http://www.suzutoku.co.jp/itm/		30									
株式会社 新生 http://www.shinsei-env.co.jp	1	9	5		1				1		

※許認可の詳細はP11「法規制コラム」、およびグループ各社ホームページをご参照ください。

スズクグループ「環境社会報告書 2011」への第三者意見

■ 震災復興に当たってのリサイクル業界の役割が自覚されています ■

3月11日の東日本大震災は、日本の社会と経済に大きな打撃を与えました。被災地では、今なお、復興に向けたさまざまな取り組みが必要となっていますが、そのようななかで、リサイクル業界に対する期待も高まっている状況です。この報告書のトップコミットメントにおいては、この点についての自覚が述べられております。

今年度の環境報告書は、読み物のパートとデータのパートに分けて、読者の関心に応じ、両面から読み進めることができるようになりました。斬新でわかりやすいと思います。

■ 業界の範となる遵法監査が行なわれています ■

わが国における廃棄物の処理事業については、従来から、不法投棄をはじめとする不適切な事例が多く発生し、それに対応して、関連法規制もさらに厳しくなってきたという経緯があります。また、さまざまな質の廃棄物が持ち込まれるために、危険がともなう事業でもあります。このため、廃棄物リサイクル業におけるマネジメントシステムにおいては、法令順守と事故削減の仕組みが十分に機能していることが、大変重要です。

この点、スズクグループにおいては、グループ横断的な取り組みを通じて、この法令遵守と事故削減の仕組みをしっかりと機能させています。今年度の環境報告書では、読み物のパートで、スズクホールディングスの遵法・環境室が実施している法令遵守監査の内容を詳細に紹介しています。この取り組みは業界の範となるものとして高く評価できます。

■ 目標が達成できなかった点を具体的に示す必要があります ■

スズクグループでは、毎年度、個々の事業所単位でさまざまな目標を掲げています。データのパートでは、その目標の達成率が約88%に達したことが述べられています。ただ、この報告書を見れば、達成できなかった項目がどのようなものか具体的に挙げてきません。マネジメントシステムの継続的改善を図るためには、達成できなかった項目と原因をきちんと把握して、来年度につなげることが重要です。環境報告書において、継続的改善の方向が見えるように、達成できなかった項目こそ、詳細に記述しておく必要があると考えます。

また、今年度も、エネルギー量、水使用量、二酸化炭素量について3年間のデータが比較可能な形で掲載されており、わかりやすいと思いました。残念ながら、CO₂発生量(総量)が増加しています。電力の二酸化炭素換算係数が増加した点も影響しているようですが、その原因を精査し、少なくとも原単位については減少傾向に向かうよう努力を行なう必要があります。



千葉大学大学院
人文社会科学部研究科 教授

倉阪 秀史氏

1964年三重県生まれ。87年東京大学経済学部経済学科卒業。同年、環境庁入庁。環境基本法、環境影響評価法などの立案に従事。98年千葉大学法経学部助教授、2008年より同教授、2011年より現職。専門は、環境政策論、環境経済論。主著に「環境政策論【第2版】」(信山社)、「環境を守るほど経済は発展する」(朝日選書)、「環境と経済を再考する」(ナカニシヤ出版)、「環境-持続可能な経済システム」(編著)(勁草書房)など。

「産廃エキスパート」の認定

東京都では、2009年度より産業廃棄物の適正処理に尽力する優良業者を評価・認定する制度を開始しました。この制度は、優秀な処理業者の育成と適正処理の推進による、リサイクルビジネスのさらなる発展を目的として始められたもの。第三者による公正な視点から各事業者を評価し、「産廃エキスパート」「産廃プロフェッショナル」の2段階の認定を与えることで、排出事業者が安心して処理を委託できる仕組みの構築を目指しています。

2009年度は中田屋(株) 船堀工場が中間処分業として上位レベルの「産廃エキスパート」に認定。さらに2010年度は(株)鈴徳 東京営業所が収集運搬業(積替え保管を除く)と中間処分業で「産廃エキスパート」の認定を受けました。



法規制コラム

参考URL(環境省): http://www.env.go.jp/recycle/waste_law/kaisei2010/

改正廃棄物処理法が2011年4月1日より施行

2010年5月19日に公布された改正廃棄物処理法が、2011年4月1日より施行されました。排出事業者の処理責任の徹底、産業廃棄物の排出抑制を目的とした今回の改正の変更点は右表のとおり。スズクグループでも、この改正にともなう組織体制・運用方法の改変などを実施しました。

なお、右表の⑥、⑦の法改正により、許認可・登録の概要(P10表参照)の「産業廃棄物収集運搬業」および「優良産廃処理業者認定制度」の取得数に変動があります。ただし、実業務への影響はありません。

主な改正点

- ① 建設系廃棄物に関する処理責任の元請一元化
- ② 事業所外での廃棄物保管に事前届出制度を創設
- ③ 処理委託先の状況確認を努力義務化
- ④ マニフェストの交付を受けない廃棄物の引き受けを禁止
- ⑤ 不法投棄の罰則強化:
最高1億円を3億円以下に引き上げ
- ⑥ 産業廃棄物収集運搬業許可の合理化
- ⑦ 優良産廃処理業者認定制度を創設

VOICE OF STAFFS

従業員の声

ここまで紹介したもののほかにも、スズクグループでは今年度もさまざまな取り組みを行ないました。その一部を、社員の声を通じてご紹介します。

スズクホールディングス(株)
システム室 志田 頼子



業務を支えるIT機器の入れ替えを実施

サーバーや各社員が使うパソコンなどのハードウェアは約5年周期で入れ替えが必要になります。今年度はその入れ替えを実施しました。グループの全システムを対象とするこの作業は、2010年7月の開始から約1年半をかけて行なう大規模なもの。より快適な社内IT環境を構築することで、グループ全社員の日々の業務をバックアップしていきたいと思います。

メタルリサイクル(株)
メタル事業部 加藤 裕一



研修で経営的な視点を学ぶ

今年度、NNY(株) 那須事業所で実施された社員研修に、私も参加しました。これは、1泊2日の日程で集中型の講義を行なうもの。研修では売上数字の見方、付加価値を高める生産管理のノウハウなど、経営的な目線から業務をとらえることを主に学びました。ここで学んだ内容を生かし、今後は新しい業務にも積極的に挑戦していきたいと思っています。

メタルリサイクル(株)
千葉営業所 伊藤 愛子



規律の重要性を全社員で共有

ルールを守ることの大切さについて、各拠点で議論した内容をまとめた冊子「いつも心に」を全社員が1冊ずつ所持。お客様第一の姿勢を常に忘れず、業務に当たっています。

中田屋(株) 富士工場 廣瀬 美保

安心して出産・育児ができる各種制度

出産後、約1年間の育児休暇を取得し、先日職場復帰しました。子どもの成長を間近で見ながら子育てをすることができて、うれしかったですね。また、子どもを通じた地域コミュニティとのつながりなど、自分の視野も広がり、それが少なからず仕事にもプラスになっていると感じています。当社は出産・育児関連の制度が充実しているので、これからも、仕事と子育てを両立していきたいと思っています。



(株)鈴徳
東京営業所 西村 滋



好きなことを続けられる喜び

定年後も再雇用制度により働いています。機器の簡単な故障ならだいたい直せてしまうので、職場では「何でも修理屋」で通ってますよ。若手にメンテナンスのコツを教えたりしながら、毎日楽しく働いています。私は東京営業所で15年目になりますが、思うのは「やはりこの仕事が一番」ということ。これからも健康に気をつけて、少なくとも65歳までは現役で頑張りたいですね。

中田屋(株)
伊勢崎工場 今野 洋成



CO₂を出さないバッテリー型フォークリフトを導入

私が勤務する中田屋(株) 伊勢崎工場では、今年度バッテリー型のフォークリフトを導入。排ガスを出さないため、CO₂の削減効果が期待できるほか、運転時の騒音もガソリン型に比べて抑えられます。環境負荷の軽減はグループを挙げての取り組み。今後も、フォークリフト入れ替えの際は、随時バッテリー型の採用も検討していく予定です。

(株)新生 田中正貴



燃費向上と業務平準化を実現

当社では、全14台のトラックにデジタルタコグラフを設置しています。全ドライバーの走行データが月ごとに一覧表で配られるので、自分のガソリン使用状況などをほかのドライバーと比較でき、燃費節約の意識が高まりました。また、全ドライバーの業務状況は事務所側でも把握できるため、業務の平準化が行なわれるようになったことも、安全運転のためにはありがたいですね。

フェニックスメタル(株)
市原事業所 根本 博



破碎処理の安全性をさらに向上

廃棄物のシュレッダー処理の際には、投入物に引火性物質などが含まれていないかどうかを事前に確認しています。しかし、時にはそのチェックをすり抜けて、爆発する可能性のあるものが混ざってしまう危険性もあります。そこで、フェニックスメタル(株)ではシュレッダーに「爆発抑制装置」を設置。万一の爆発も瞬時に感知して消し止めるこの装置により、私たちも安心して働くことができています。

※爆発抑制装置は中田屋(株) 富士工場でも導入

サニーメタル(株)
大阪事業所 西村 泰尚



環境に配慮した新工場棟を建設

サニーメタル(株)では今年度、家電リサイクルの新工場棟が完成しました。これまでは半屋外の処理場で作業を行なっていましたが、今回のリニューアルで屋内での作業を実現。騒音や粉塵などの発生を抑制することができています。また同時に、回収フロンの保管庫には空調を設置し一定温度に保つなど、より安全・確実な処理体制も整備しました。

F 地元団体と合同で河川を清掃

中田屋(株) 加須工場では、工場近隣を流れる会の川の清掃活動を実施しました。これは「加須再生資源事業協同組合」が中心となり、地元の複数団体が参加して行っているもの。加須工場からは毎年1名が参加しています。今年度も、手作業によるごみ回収のほか、重機を用いた大がかりな清掃を行ない、河川美化に貢献しました。



G 放置物件の不要物の片付けを実施

メタルリサイクル(株)では、地元地域の放置物件における不要物の処理を実施しました。以前は自動車解体業者の事業所だったという同物件は、これまで30年以上にわたり放置されていました。そこで今回、埼玉県産業廃棄物指導課からの依頼を受け、メタルリサイクル(株)が処理を実施。場内にあった廃自動車などの産業廃棄物を撤去しリサイクルすることで、現場を再生可能な状態に復帰しました。



このことが自治体からも評価され、2011年6月には上田埼玉県知事より感謝状をいただきました。

H 高齢者の江の島見学をサポート

2010年10月、藤沢湘南ライオンズクラブでは「車いす利用高齢者江の島見学会」を実施。この見学会に(株)鈴徳 藤沢営業所の社員がボランティアスタッフとして参加しました。

江の島の頂上にある展望台までは階段が多いため、車いすでの移動は困難です。そのため、車両による移動助、交通整理などを行ないながら、お年寄りの移動をサポートしました。

同営業所では、継続的な地域支援活動として来年以降も見学会への参加を計画しています。

I アルミ缶回収優秀校の推薦・表彰

アルミ缶リサイクル協会では毎年、資源回収活動に尽力した小・中学校の協力者表彰を行っています。今年度は全国で80校が回収優秀校として表彰を受け、協会の会員である中田屋(株) 富士非鉄工場が推薦した富士市立元吉原中学校が、その1校として選ばれました。

2010年10月、同校の文化発表会と同時に行われた表彰式には、同工場の担当者が出席。アルミ缶リサイクル協会を代表し、生徒代表へ表彰状を手渡しました。

J 河川美化を推進する制度に参加

静岡県富士市の東部を流れる滝川沿いでは、沿川の数社が集まり、河川美化活動を行なう「滝川の水辺と遊歩道を育てる会」を結成しています。中田屋(株) 富士工場が参加する同会では、このたび、行政と民間が協働して河川美化に取り組む「リバーフレンドシップ」を行政と締結。会の副代表である富士工場長が締結式に出席しました。

この制度に加盟したことで、河川美化活動を自治体の支援の下で行なえるようになります。今後はさらに効果的な活動を展開していく予定です。

K プランター設置による地域緑化

サニーメタル(株)では事業所周辺の道路にプランターを設置し、地域緑化を推進しています。地域の工業会と共同で行っているこのプロジェクトでは、現在までに全50個のプランターを配置。それぞれのプランターには給水管を設置することで、無人給水も可能な仕組みにしています。

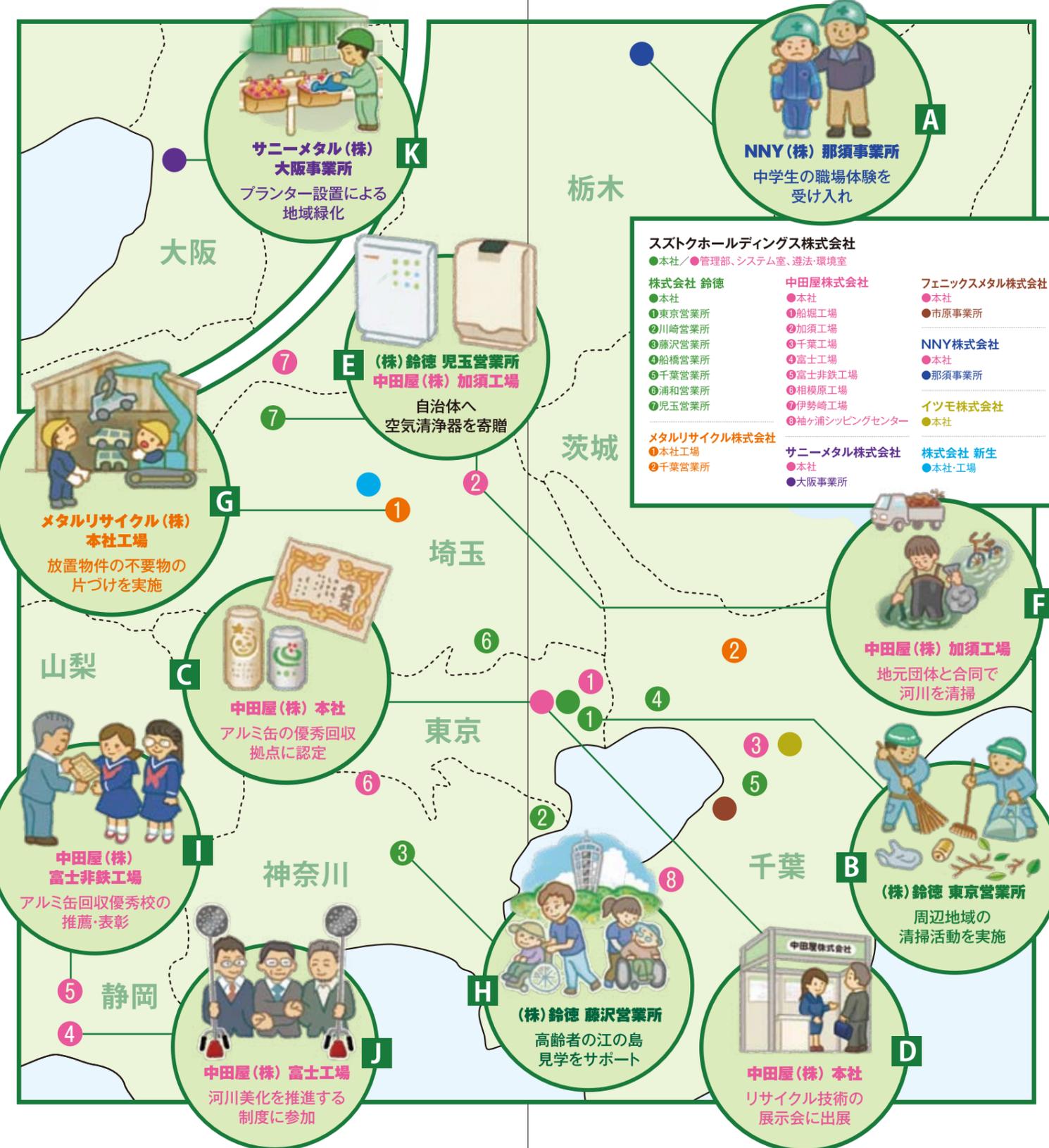
この地域美化活動の実施によって、それまでの課題だった工場周辺での廃棄物の不法投棄は、ほぼゼロになりました。

スズクグループ コミュニケーション マップ2011

スズクグループ全9社は、地域社会との共生を大切にしています。

地域清掃、ボランティア活動、職場体験学習への協力など、毎年さまざまなかたちでの社会貢献活動を実施。

ここでは、グループ各社が本年度行なった主な活動をご紹介します。



A 中学生の職場体験を受け入れ

NNY(株)のある栃木県大田原市では、中学生が興味のある企業へ体験希望を出し、企業側が受け入れるという方式で、職場体験型授業を行なっています。この制度により、今年度はNNY(株) 那須事業所で中学生が体験学習を行ないました。体験後、生徒からは「将来はこの世界で働きたい」という言葉も出るなど、資源リサイクルに対する興味をいっそう高めてもらうことができました。今後も、同事業所では同様の取り組みを積極的に行なっていく予定です。



B 周辺地域の清掃活動を実施

(株)鈴徳 東京営業所は、開設以来、毎朝始業前に事業所周辺の清掃活動を実施しています。事業で発生するごみや泥などを散乱させないことはもちろん、よりいっそうの地域美化を目指しています。

C アルミ缶の優秀回収拠点に認定

毎年、アルミ缶リサイクルに尽力した企業に贈られる「アルミ缶リサイクル優秀回収拠点表彰」を、今年度、中田屋(株)が受けました。これは、再資源化事業の促進とリサイクル意識の高揚を目的に、アルミ缶リサイクル協会が実施しているもの。グループが継続してきた廃棄物再資源化への取り組みが評価され、今回の受賞となりました。



表彰式は2011年2月に都内で行なわれ、中田屋(株) 非鉄原料部の担当者が出席しました。

D リサイクル技術の展示会に出展

アジア最大のエレクトロニクス製造・実装技術展「インターネブロン・ジャパン」の併催展「3R 中小ベンチャー企業バザール」に、今年度、中田屋(株)が出展しました。これは、優れた技術を持つ中小企業の受注獲得推進を目的に、経済産業省が主催しているもの。この展示会で、中田屋(株)は比重選別の実証モデル、回収物サンプルなどの展示を行ない、来場者へ同社のリサイクル技術に関する説明を行ないました。



E 自治体へ空気清浄器を寄贈

(株)鈴徳 児玉営業所、中田屋(株) 加須工場では、それぞれの地元自治体へ空気清浄器を寄贈しました。児玉営業所は神川町に2台、加須工場は加須市に7台を寄贈。現在、それらの空気清浄器は小学校のパソコン教室に配備されるなど、町民・市民の生活環境整備に役立っています。



(左) 神川町・清水町長への寄贈の様子 (右) 加須市・大橋市長から感謝状を授与

グループの実態を見据え、新たに追加された項目もある。「やや手薄と感じていたことが拡充の要因です」と山田。行程管理票の記入方法や、フロン回収基準に関するチェック項目がそれに当たり、これは前年までの監査結果を踏まえて追加したという。

マ ニフェストの管理方法など 長時間をかけて綿密に確認

千葉工場の監査も、このチェックリストに基づいて行なわれた。午前九時三〇分にスタートした監査では、冒頭にオープニング・ミーティングを実施。委託先企業が事業所を訪問してきたことを想定して、監査担当者で工場長の間で模擬的な質疑応答が行なわれた。また、その後は工場長が案内役、監査担当者が訪問者役となつて、ロールプレイング方式での工場案内も実施。質疑応答と実演の両方で、訪問者に対する工場側の対応を確認する方式をとっている。

ミーティングの後は、場内視察による監査だ。OA機器解体ライン、家電荷受ヤード、スクラッププレスヤードといった区域ごとに、監査担当者は目視と工場長の質問を行ない、チェックリストを埋めていく。特に、千葉工場では廃棄物の保管場所、種類、量などが事業所の届け出内容と合っているかどうかを、監査担当者が念入りに見ていった。これは、千葉工場ではつい先日場内レイアウトを変更していたため、届け出内容との相違が発生していた

ないかを確認するためだという。保管中の廃棄物が積まれた高さ、ガスボンベの管理状況、排水ルートや騒音・粉塵のレベルなど、多岐にわたる項目を確認しながら、入念に監査は進められた。

場内で見えるべき項目をひととおりチェックし終えると、再び事務所に戻り「フィードバック・ミーティング」を実施する。これはその名の通り、場内を監査した際に気になった点などを事業所側と共有し、改善策を練ることを主な目的とするものだ。運用状況が本場に問題ないかどうかは、そのたびに法律的な観点から確認する必要がある。そのため、場内で確認してきた状況を、根拠となる法律の条文などに照らし合わせて確認することが欠かせない。「そのうえで、問題があった場合は、改善方法について話し合います」と山田は説明する。

さらに、グループの遵法監査においては、契約書やマニフェストの運用・管理方法などの事務的な業務に関しても、膨大なチェック項目が設定されている。このフィードバック・ミーティングではそうした項目も同時に確認していく。そのため、ミーティングは数時間を要することも多いというが、一項目ずつ確実に実態を把握することが監査では不可欠なのだ。



ストックホールディングス株式会社
遵法・環境室 課長
山本 紀行

遵法監査レポート2011



工場案内のロールプレイング
外部業者の訪問対応の確認が今年度の監査の特徴。ミーティングでの質疑応答、およびロールプレイング形式で工場案内を実演する監査項目を新たに追加した。

最後に「クロージング・ミーティング」を開催し、監査は終了となる。このミーティングで監査結果を事業所全員に伝え、改善への意識を共有することが非常に重要だという。千葉工場の監査では、クロージング・ミーティングが終了したのは午後六時。八時間半もの時間をかけて、厳正な監査が行なわれた。

エ リア担当者と各事業所が 改善方法を一緒に考える

このように、長い時間をかけて行なわれる遵法監査だが、より重要なのは「指摘で終わらせないこと」と遵法・環境室

を防止する。監査の際には、各担当者が自分のエリア外の拠点を担当することで、客観的な視点による監査の厳正さを維持している。

「これまで課題だった『一度改善した箇所が翌年以降に再発する』という事態も、この体制によって減らしていると考えています」と山本は期待を込める。

顧 客サービスを支える 法令遵守への取り組み

今回の千葉工場の監査結果について、山本は次のように振り返る。「おおむね良好でした。外部事業者の訪問に対しては十分な備えができていましたし、ギロチンダストの泥上げ作業手順に安全ルールを設定するなど、独自の取り組みも見られました」。いくつか散見された小さな指摘事項に関しても、工場と遵法・環境室とが一体となって改善策を実施中だ。

一方、千葉工場長・石井正行は、現場の視点から監査について次のように話す。「日々の業務に追われがちで、現場にとつて、毎年の監査による適法性の管理は、安心して事業を行なううえで欠かせないものです」。さらに、



場内に設置された保管場所掲示板
場内の各所には、廃棄物の管理について事業所が届け出た内容が記載された保管場所掲示板が表示されている。この内容と実態が異ならないか重要な監査ポイントとなる。



中田屋株式会社
執行役員 千葉工場長
石井 正行

担当制によつて遵法・環境室からのサポートが拡充されるが、これについても石井は「不備改善のための現場の取り組みが、より早期に実施できるように」と評価する。ストックグループが遵法監査を開始して約七年。各事業所の法令遵守状況は年々改善しており、今後はさらに高度な体制を目指すという。グループが提供している安心・安全な顧客サービスを支えているのは、こうした地道な取り組みなのである。

今年度のグループの監査スケジュール



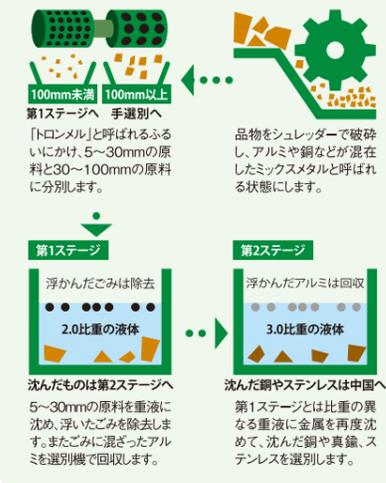
4月から翌年3月を1サイクルとして監査を実施する。2回目の「フォローアップ監査」では、1回目の監査での指摘箇所の改善状況を確認。さらに3回目の「臨時監査」では年ごとの重点項目の監査などを行ない、三重の確認体制で確実性を高めている。同時に、遵法・環境室では各事業所に対し、年間を通じて遵法業務を遂行するためのアドバイスや指示、連絡を行なっている。

NNY(株)

那須事業所

スクラップを宝に変える 選別のための専用施設

使用済み自動車や廃家電などをシュレッダーで破碎すると、鉄、プラスチック含有非鉄金属、ダストに分離されます。プラスチック含有非鉄金属は、別名「ミックスメタル」とも呼ばれ、アルミ、銅、ステンレスなど有用な非鉄金属を含んでいます。そのミックスメタルをさらに細かく選別するための専用施設を持つのがNNY(株)です。ミックスメタルの選別方法としては、風選別、水選別、磁気選別、手選別などがありますが、NNYでは「比重選別(比重重液選別)」を採用しています。これは、比重の大きい重液を用いて特定の金属を分離・回収する手法。たとえば、二〇比重の重液にミックスメタルを投入すると、まずダストだけが浮かび上がります。次いで、三〇比重の重液では、銅や真鍮、ステンレスなどは下に沈み、アルミだけが浮かび上がります。このような仕組みを利用して、ミックスメタルを選別するのです。



中田屋(株)

富士非鉄工場

目利き力を武器に 非鉄金属に特化

アルミやステンレス、銅といったメジャーな非鉄金属から、ニッケルと銅の合金であるモネルメタルといったマイナーなものまで、非鉄スクラップを専門に取り扱っているのが中田屋(株)富士非鉄工場です。重く、大きな原料を運ぶため機械化が進んだ鉄スクラップに対し、非鉄專業である同工場の業務は手選別、手解体が基本。扱う非鉄は、約八〇種類にも及びますが、それを「色調」と「特性」で見極め、選別、加工して、リサイクルしているのです。とはいえ、非鉄金属の見極めは、そう簡単ではありません。とにかく種類が多いうえ、たとえば、先に挙げたモネルメタルは、見た目がステンレスとそっくり。それを見抜くには、豊富な経験と知識が不可欠です。そこで、同工場では、日々、ベテラン社員が後輩たちに非鉄に関するノウハウを伝授。「目利き力」を磨いています。



同工場では社員研修にも力を入れています。この研修を通じ、非鉄金属にまつわるさまざまな知識・ノウハウを若手社員へ伝授しています。

今年度導入の
最新設備



(株)新生が導入した四軸式破碎機。一軸式カッターの従来機に比べ、パワーと耐久性が格段に向上しました。

より高度なリサイクルの仕組みを実現するため、グループでは、常に設備投資を行なっています。今年度も、さまざまな設備を導入しました。たとえば、(株)新生が購入したのが、四軸式破碎機です。同社は、木くず、家電などに組み込まれている基板に加え、個人情報記載された機密書類、ブランドロゴがプリントされた衣類や靴などの処理を行なっています。今回、従来の二・五倍の馬力を持つ破碎機を導入したことで、処理能力を二・五倍に向上。リサイクル効率を大きく向上しています。また、中田屋(株)千葉工場では、紙用のベラー(圧縮梱包機)を新規導入しました。新聞・雑誌などの回収古紙や産業古紙を減容・圧縮するベラーを導入したことで、鉄と古紙を同時に荷受けできるようになり、お客様の利便性向上に貢献しています。今後は、ブルーシートや繊維、プラスチックなどの産業廃棄物にも対応する予定です。



中田屋(株)千葉工場の紙用ベラー。導入により、鉄と古紙が混ざった荷物も同時に受け入れ可能になりました。



遵法監査レポート2011 中田屋 千葉工場の遵法監査に同行 法令遵守のための取り組みを追った

ストックホールディングスの「遵法・環境室」では、毎年、全拠点を対象に遵法監査を実施している。遵法監査とは、グループ各社の業務が法に則して行なわれているかどうかをチェックする内部監査のこと。ここでは、中田屋(株)千葉工場での遵法監査を基に、本年度の監査の様相を紹介する。



環境保全のためにも、廃棄物は正しく処理しなければならない。そのため、中間処理業者による廃棄物の取り扱いには「廃棄物処理法(※)」によって厳格に定められている。しかし、この法律は廃棄物の多様化、適正処理に対する社会的要請の高まりなど、時代の流れに呼応して頻繁に改正される。中間処理業者を営む各事業者には、常に最新の法令を熟知し、自社の事業のコンプライアンス(法令遵守)を確保することが求められている。そこで重要な取り組みとなるのが、遵法管理の担当者が実際に事業所を見て回り、業務の適法性をチェックする「遵法監査」だ。ストックホールディングス(株)では、遵法・環境室が中心となって、グループの全拠点に対する監査を毎年実施している。

「もし法令違反が発覚すれば、業務許可取り消しなど、企業の存続にかかわる問題につながりかねません。これらを未然に防ぎ、お客様に安心して取引していただくために、遵法監査はグループにとって欠かせない取り組みなのです」と遵法・環境室課長の山田圭一は話す。

最新の廃棄物処理法に基づき チェックリストを毎年更新

では具体的に、遵法監査とはどんなものだろうか。二〇一一年七月二六日に実施された中田屋(株)千葉工場の遵法監査を例に、その様子を見ていこう。監査は、監査チェックリストを基に進められ、本年度のチェック項目数は一四四項目に及ぶ。「確認項目は、法改正や前年度の監査結果を踏まえて毎年追加・改変しています」と山田は説明する。これにより、各事業所の業務実態を常に

最新の法律に基づいてチェックできるようにしているのである。今年度のリストの更新項目は、大きく二つ。一つ目は「委託先の監査と現地視察」に関する項目だ。

二〇一二年四月の法改正により、排出事業者による委託先審査と現地視察の努力義務化が始まった。それにより、各事業所は排出元の事業者から工場見学や監査を受ける機会が増えることが予想される。そのため、その際の対応を確認できるように、関連する項目の内容を追加したという。

また、各拠点は監査を受けるだけではなく、排出事業者として委託先を監査する側にも回ることもある。そのため、「委託先を訪問したことがあるか」「委託先でどんなことを確認しているか」など、委託先監査の実施に関する内容も併せて盛り込んだ。

二つ目は、マニフェスト(産業廃棄物管理票)に関する項目だ。同じく四月の法改正によって、処分業者のマニフェスト不交付時における産業廃棄物の引き受けが禁止となったため、現場が正しく対応できているかどうかの確認を新たに行なうようになった。

ほかにもフロン回収関連の項目など、



ストックホールディングス株式会社
遵法・環境室 課長
山田 圭一

※正式名称は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」

リサイクル最前線の 仕組み

Focus On!!

さまざまなスクラップや廃棄物を処理するには、多様な設備、そして、高度なノウハウが必要です。スズテックグループの各拠点は、それぞれ、所有する設備やグループ内での役割が異なっており、それが、拠点ごとの特色や強みとなっています。ここでは、主要な拠点を取り上げ、リサイクル現場の仕組みを紹介いたします。

(株)鈴徳

東京営業所

パワーアップした設備で鉄スクラップを大量処理

(株)鈴徳 東京営業所では、ビルの建て替え時に発生する建材などの鉄スクラップ、そして、鉄以外の金属スクラップ、さらには金属以外の素材も含む混合廃棄物を中心に処理を行なっています。これらの処理に欠かせないのが「スクラップシャー」と「スクラッププレス」の二つの設備です。まず、スクラップシャーは、鉄筋・鉄骨鋼管など、厚くて長い鉄スクラップを一定の長さに切り揃える際に使用します。投入した材料を刃の下に送り出して切断することから、通称「ギロチン」とも呼ばれます。切断加工した鉄スクラップは、鉄の原料として鉄鋼メーカーに供給します。

スクラッププレスとは、鉄スクラップなどの素材を圧縮し、減容・成型する設備です。上と横から強い力で廃棄物を圧縮し、箱型の状態にします。同営業所では、主に什器類、空き缶、アルミサッシなどを成型し、鉄鋼メーカー、あるいはグループ企業のフェニックスメタル(株)のような二次処理工場へ搬出します。

なお、処理に使用するスクラップシャーとスクラッププレスは、二〇〇九年の移転と同時に最新鋭のものを導入し、処理能力を従来の約三・五倍にパワーアップしました。加えて、同営業所では、近年発生が増えている「紙くず」「木くず」「繊維くず」「がれき類」なども取扱品目に加えています。

す。このように幅広い廃棄物を受け入れることで、お客様のニーズにワンストップで対応できる体制を整えています。環境に配慮した工夫も同営業所の特徴です。防音効果のある壁材により騒音を

を低減しているほか、耐震対策も徹底し、周辺地域への影響を最小化。また、乾燥に強い多肉植物を屋上二面に植える「屋上緑化システム」、太陽光と風力で発電する門灯なども備えています。

最新鋭のギロチンは従来機種に比べて処理速度を約3割向上しているほか、切断時に発生する粉塵を抑制する機能も備えています。

マグネットを操作して大量の鉄スクラップをギロチンに投入します。

鉄スクラップはギロチンヤード、その他の金属スクラップ・混合廃棄物はプレスヤードへと搬入されます。

金属スクラップと混合廃棄物を分別し、プレスに投入します。

什器類、空き缶、アルミサッシなどを巨大なプレス機で圧縮成型します。その後、加工済みの品物が排出口から押し出される仕組みです。

処理済みの品物は鉄鋼メーカーへ納品されるほか、プレス加工後の品物の一部は二次処理工場へも搬出されます。

フェニックスメタル(株)

市原事業所

家電、自販機、バイクなど多様な廃棄物に一括対応

家電、自動車、産業廃棄物、自動販売機、オートバイ、パソコンなど、さまざまな廃棄物の大規模処理を行なっているのがフェニックスメタル(株) 市原事業所です。なかでも家電については、指定引取場所・再商品化施設の認定を受け、家電リサイクル法で指定されている「エアコン」「テレビ」「冷蔵庫」「洗濯機」の四品目すべてのリサイクルに対応しています。

このように多岐にわたる廃棄物のリサイクル処理を行なうため、同事業所は、グループ内でも有数の設備を持っています。たとえば、各家電のリサイクルについては、専用の解体ラインを持っているうえ、冷蔵庫のリサイクルに不可欠な断熱材フロン回収装置を完備。このフロン回収装置を持つているのは、グループのなかでも同事業所だけです。

また、金属以外にプラスチックやゴムなどを含む複合素材製品を破砕し、風力や磁力によって鉄・非鉄金属、ダストに分別するシュレッダーについても、三五〇〇馬力の最新鋭機を導入しています。

グループ随一の処理能力を持つことから、同社は、他拠点の二次処理工場としても機能。各拠点で一次処理が行なわれた廃棄物が、日々、大量に持ち込まれます。そこで、同事業所では、大量の廃棄物を効率的に処理するため、工場のレイアウトを工夫。たとえば、解体を行

なった家電を最小限の工数でシュレッダープラントに移動できるように、プラントや解体ラインを配置するなどしています。そのほか、工場見学者が安全な場所

から作業の様子を見学できるように、プラント内に長さ一〇五メートルの見学者用通路を設置。近年、高まっている内部監査や委託先監査のニーズにも対応しています。

フェニックスメタル(株)で扱う主な品物



家電リサイクル法が定める4品目すべてのリサイクル処理を実施しています。フロン回収装置によるフロン回収、手作業によるリサイクル可能パーツの取り外しが行なわれた後、シュレッダーヤードへ搬出し、破砕処理を行います。

粗破砕を行なう「プレシュレッダー」、大型の「シュレッダー」、厚みのある材料を切断する「マウントシャー」など多彩な設備を所有。広い敷地をフルに生かし、グループ随一の処理能力を実現しています。

スズクグループ

さまざまな機能を駆使して
再資源化、適正処理を行ないます。

金属リサイクル



鉄・非鉄スクラップを
切断、圧縮、破砕、選別し、
メーカーへ出荷します。

自動車リサイクル



使用済み自動車の破砕処理による
再資源化に加え、解体、
中古パーツ再生を行ないます。

家電リサイクル



法に定められた適正な方法で、
廃家電の処理、
再資源化を行ないます。

収集・運搬



廃棄物の収集、
運搬を行ないます。

エコソリューション事業



全国の廃棄物処理ニーズに対応し、
適正かつ効率的なリサイクル
フローを提案します。

その他

フロンやガラスなどは、委託先企業と協力し適正に処理します。



資源の受け入れ
年間 **104万9500**トン



再資源化して還元
年間 **87万8300**トン

日本の産業廃棄物の総排出量は、年間4億トン以上といわれます。この膨大な量の廃棄物は、産業の発展などにより年々種類も多様化。そのため、地球環境を守り、私たちが豊かな暮らしを続けるためには、廃棄物リサイクルのさらなる高度化が重要な課題となっています。

スズクグループは、一つでも多くの使用済み資源をリサイクルし、豊かな社会を次世代へ引き継ぐための取り組みを行なっています。今年度は104万9500トンの使用済み資源を受け入れ、そのうち87万8300トンを再生して社会に還元しました。



社会

使用済み資源



- ・廃自動車 ・廃家電 ・金属スクラップ
- ・工場発生廃材・廃鋼材など
- ・廃自販機・廃OA機器・廃業務用電子機器
- ・その他(什器、廃プラスチック、古紙、雑品など)



製造業などで再商品化

グループの事業

グループ各社の強みを生かし
廃棄物リサイクルにかかわる事業を
総合的に展開しています。



スズクホールディングス株式会社
グループCEO（最高経営責任者）

鈴木 孝雄

今年、グループの（株）鈴徳は創業一〇七年、中田屋（株）は節目の設立六〇年を迎えました。これはひとえにお客様、取引先、地域の方々のご愛顧、ご協力によるものです。これからも、私たちは、グループ一丸となって真の循環型社会の実現に邁進し、ステークホルダーの皆様にとって常に最良のパートナーであり続けることをお約束いたします。

「再資源化できない品物」を一つでも減らし、モノや資源を“迷子にしない”事業体制の構築に全力を傾けていく所存です。そのためには、設備の拡充、組織体制の強化など、さまざまな取り組みが不可欠ですが、特に重要になるのが人材の育成です。一人でも多くの優秀な人材を育成し、高度循環型社会の実現と地球環境の保全に貢献したいと考えています。人材育成の中核には「One for All, All for One」という理念を据えました。これは、自社の利益だけでなく、お客様や取引先を含む社会全体のためになることを考えようということ。それこそが当社の考える「プロ」や「リーダー」の姿であり、私たちが、景気低迷や震災で疲弊した日本経済に活力を与えられる存在になるために不可欠なことだからです。



スズクホールディングス株式会社
グループCOO（最高執行責任者）
中田屋株式会社 代表取締役社長

伊藤 清

高度循環型社会の実現に貢献し 震災からの復興を目指す日本に活力を与えたい

今年、日本は東日本大震災という未曾有の災害に直面しました。被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。スズクグループでも、義援金を送ったり、ボランティア活動に参加するなど、さまざまな被災地支援活動を行なっています。今後も、こうした取り組みは積極的に行なっていく予定です。

当グループを取り巻く情勢に目を向けると、新興国におけるインフラ需要の拡大などもあり、金属スクラップ市場は、グローバル規模で長期的な成長が予想されます。天然資源の少ないわが国にあって、スクラップやレアアースが注目される一方、まだ再資源化に向けた取り組みが遅れている廃棄物も多数あります。

こうした状況に対応し、お客様のニーズにお応えするために、私たちは、資源リサイクルの可能性を追求していきます。

スズクグループ企業理念

事業活動を行なううえで果たすべき「4つの責任」。
グループではこれを常に忘れることなく、高度循環型社会の形成に貢献していきます。

1 お客様に対する責任 for Customer

すべてのお客様・お取引先様との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

2 社員に対する責任 for Employee

社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくりまします。

3 社会に対する責任 for Society

常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努め、資源リサイクル事業を進めます。

4 株主に対する責任 for Stockholder

バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

企業行動憲章 (社)日本経済団体連合会

企業は、公正な競争を通じて付加価値を創出し、雇用を生み出すなど経済社会の発展を担うとともに、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため企業は、次の10原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。
6. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底する。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法律の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、当該国・地域の経済社会の発展に貢献する。
9. 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内ならびにグループ企業にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立する。
10. 本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

2010年7月、スズクホールディングス株式会社は日本経済団体連合会に加盟しました。
当グループは、企業行動憲章の理念を順守し、循環型社会の一翼を担ってまいります。

Contents

Sustainability Report

スズクグループ1年間の成果

2010年度 資源リサイクルの全体像	02
環境マネジメントシステムについて	04
労働安全衛生の確保・推進	06
コンプライアンスの徹底	07
グループ概要・会社紹介	08
許認可の概要・第三者意見	10



13 VOICE OF STAFFS ~従業員の声~

15 コミュニケーションマップ2011

18 遵法監査レポート2011 ~中田屋(株)千葉工場

21 Focus On!! リサイクル最前線の仕組み

23 グループの事業

25 Top Commitment

26 スズクグループ企業理念

スズクグループ活動報告
Close Up Activities

本冊子は両面を表紙とする体裁の2部構成になっており、どちらからでもお読みいただけます。「スズクグループ1年間の成果」では、今年度のグループの事業活動を詳細なデータを基に紹介。「スズクグループ活動報告」では、グループのさまざまな取り組みを、読み物としてまとめました。

お問い合わせ:スズクホールディングス株式会社
TEL:03-3293-6301 FAX:03-3219-5935 URL:http://www.suzutoku.co.jp/ho/
※本冊子の感想・ご意見については
メールアドレス〈holdings@suzutoku.co.jp〉までお願いします。

編集方針

本報告書は、グループ各社の持株会社スズクホールディングス(株)の設立(2007年7月2日)後、4回目の環境社会報告書となります。スズクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境、社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しております。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後もさらに報告内容の充実を図ってまいります。

■報告対象範囲

スズクホールディングス(株)とグループ会社8社を報告対象としています(P8~9参照)。

■対象期間

2010年7月から2011年6月 ※これ以外の期間に集計した数値などは、その旨を該当ページ内に明記しました。

■次回発行予定

2012年9月を予定しています。

Close Up Activities

 スズキグループ環境社会報告書 2011

スズキグループ活動報告

「地球」と「次の世代」のために



スズキホールディングス株式会社
株式会社 鈴鹿 メタルリサイクル株式会社
中田屋株式会社 サニーメタル株式会社
フェニックスメタル株式会社 NNY株式会社
イツモ株式会社 株式会社 新生